

希望の樹 (1976)

ДРЕВО ЖЕЛАНИЯ

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ソ連

色彩 Color

時間 107分

初公開日 1991/03/09

公開情報 日本海

【キャッチコピー】

美しいものは どこへ行ってしまったのか 希望の樹は どこにあるのだろうか

【解説】

革命の気運が辺境のグルジアの村にも及び始めた頃、一人の牧童の少年が、村に戻った父に連れられた少女に恋をする。母を亡くし、祖母の下で家事の手伝いに勤しむ彼女も少年にほのかな想いを寄せた。ところが、その彼女に横恋慕する地主の息子。祖母は孫の将来を思って彼に嫁がせる。しかし、格式を重んじる地主の家で姑に冷遇される娘は、戦争に赴いた夫の留守に牧童と再会した所を見つかり、因習に従って雨の中、村中を引き回される。美しい純愛を核に、牧歌的な世界に時代の波が伝わる様を、子供たちにアナーキズムを説いてまわる中年男や、厭世的な警句を吐きながら歩く老人などを狂言廻しに詩情豊かに綴っていく。冒頭の、白い馬が花畑に倒れる場面の斬新な色彩感覚、ラスト・シーケンスの悲痛な長廻し（少女はまさに石もて打たれるのだ）とその唐突な終止符。カンヌで審査員特別大賞に輝く「懺悔」を遺作に'94年死去したアブラゼの瑞々しい映像の力に吞まれる。

【クレジット】

監督 テンギズ・アブラゼ Tengiz Abuladze

原作 ゲオルギー・アブラーゼ

脚本 レヴァズ・イナニシヴィリ

テンギズ・アブラゼ Tengiz Abuladze

撮影 ロメール・アフヴレディアニ

音楽 ベジーナ・クヴェルナーゼ

ヤコブ・ボボヒーゼ

出演 リカ・カヴジャラーゼ

ソソ・ジャチヴリアニ

カヒ・カヴサーゼ